

野南部に所在する。小矢部
れた河岸段丘上に立地し、標
高は六二m前後を測る。調
査は東海北陸自動車道建設
に先立ち、一九九〇年に第
一次調査、一九九一年に第
二次調査を実施した。それ
ぞれ遺跡の南西部分、中央
部分にあたる。木簡が出土
した第一次調査では、一六
一八世紀を主体とする掘

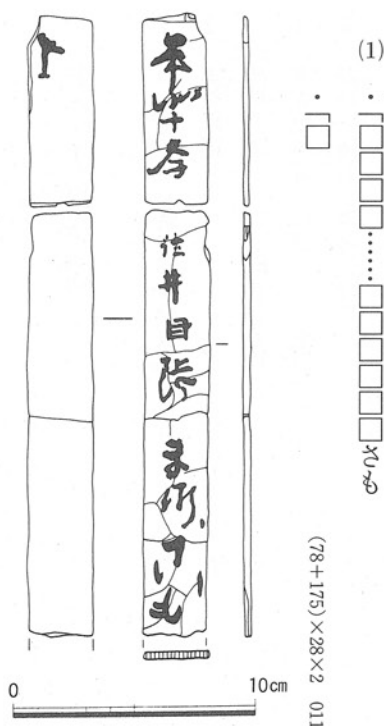
富山・田尻遺跡

- 1 所在地 富山県東礪波郡福野町田尻
- 2 調査期間 第一次調査 一九九〇年(平2) 四月～一〇月
- 3 発掘機関 (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 4 調査担当者 安念幹倫・佐藤聖子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代Ⅰ一八世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

立柱建物四棟、井戸、土坑、溝などが確認されている。地区の西側は権現堂川（山田川の支流）の氾濫原、東側はこれに流れ込む溝によつて舌状台地となっており、ここに形成された集落の一部を検出した。

SD六二は、権現堂川の氾濫原に流れ込む溝で、最大幅四・五m最深六〇cmを測る。断面はU字状で、灰色系の粘質土がレンズ状に堆積している。木簡はSD六二が北に向かってややカーブした辺りから出土している。木簡の他には縄文土器、中世土師器、珠洲、越前、瀬戸美濃、中国製白磁・青磁、越中瀬戸、唐津、伊万里、下駄漆器椀、石臼、五輪塔、銭貨などが出土している。遺構の時期は一五世紀後半―一七世紀である。

8 木簡の釈文・内容



二片の木簡は直接接合しないが同一個体と思われる。表の一文目は「年」あるいは「平」、四文字目は「為」あるいは「条」である。もう一片には八文字が書かれており、最後の二文字はひらがなの「さ」「も」と読める。裏にも何か書かれているが判読できない。二片とも板状の杉材である。

木簡の釈読にあたり奈良大学水野正好氏からご教示いただいた。

9 関係文献

〔富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所〕「梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告」（富山県文化振興財団埋蔵文化財調査報告八 一九九六年）

（三島道子）

新潟・大坪遺跡 おおつぼ

- 1 所在地 新潟県南蒲原郡田上町大字川船河字大坪
- 2 調査期間 一九九四年（平6）一〇月～十二月
- 3 発掘機関 田上町教育委員会
- 4 調査担当者 田畑 弘・風間 力
- 5 遺跡の種類 遺物包含地
- 6 遺跡の年代 古墳時代～平安時代、近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（新津）

調査地は、明治末年の耕地整理時に、標高の高い部分が削平されて低い土地に埋められ、また、ほぼ中央を流れていた茗ヶ谷川を迂回させて独自に区画されており、周囲の水田の並びに比べると特異な形を呈している。

調査は、県営圃場整備事業に伴う緊急調査で水路部分並びに工事により削平される部分約一四〇〇㎡について実施した。確認された